所報 あきた

所報あきた 127号
令和２年９月15日発行
発行所　曹洞宗秋田県宗務所
発行責任者　齋藤昭道
〒010－0812 秋田市泉三嶽根15－18
ＴＥＬ(018)868－6871
ＦＡＸ(018)868－6872
http://soto-akita.com
info@soto-akita.com
題字　能代市倫勝寺　山田晃一
写真　能代市倫勝寺　山田俊哉

○令和元年度事業報告・収支決算報告

○寺族会・婦人会　会長あいさつ

○知足集(二)

通　常　所　会

７月 29 日、ソーシャルディスタンスを確保するため、秋田ビューホテルにて開催。

所会に先立ち人権学習

通常所会（決算）開会

所会議長　藤原徳義老師

所会副議長　嵯峨義房老師

所会の様子１

所会の様子２

本当に大切なもの

秋田県宗務所　所長　齋藤昭道

宗務所管内御寺院様には、日頃、宗務所主催の諸行事に積極的にご参加いただき心より感謝申し上げます。

今年は年度初めより新型コロナウイルス感染症の蔓延阻止のために、三月の所会にて決定されていた行事のほとんどが開催中止になってしまいました。誠に残念であります。

そのような中、去る七月二十九日、参与、所会議員諸老師の御出席のもと、通常宗務所会が秋田ビューホテルを会場に開催され、案件すべてが満場一致にて、ご承認いただきましたことを御報告申し上げます。

また、令和元年度事業報告及び収支決算報告等、ご承認いただきました案件の詳細は当所報に掲載致しておりますので、ご確認いただければ有難く存じます。

宗務所においては、年度初めの四月からコロナウイルスのために、宗務所主催のすべての行事の中止と各種団体へ会場をお貸しすることを中止し、対応してまいりました。その関係上、宗務所での所会開催を取りやめ、よりソーシャルディスタンスの保てるホテルでの開催といたしました。

九月からは各種団体への会場の貸し出しは、再開いたしますが、宗務所が定めたガイドラインに沿って使用下さいますようお願い致します。

また、本年度開催する予定であった行事の中で、現職研修会は元曹洞宗総合研究センター講師であった中野東禅先生をお迎えして、初学のための正法眼蔵をご講義いただく内容でありました。もし、来年度開催できるならば、是非おいでいただければと考えております。

そして、十一月九日に開催予定であった宗務所・禅センター設立三十年記念集会も開催できなくなってしまいました。この記念行事の中で、解剖学者の養老孟司先生をお呼びして記念講演を開催する予定でありました。残念ながら叶わぬこととなりましたが、記念集会の一年延期を決定したと同時に、一年後の記念講演の講師も快諾いただきました。

その養老先生が、コロナを乗り切る「心をたもつヒント」を新聞紙上に掲載なさっておいでした。「いま起きていることを頭で考えるのではなく、体で感じてほしい。芸術や文化が、どれほど生活する上で大切なものか。心から欲することで理解できるはずだ。」と述べておられます。

今だからこそ、信仰が自ずと私たちを正しき道に導くかけがえのない大切な存在であると信じたい。来年は、管内御寺院様はじめ関係される全ての方々と共に活動出来ることを念願するとともに、皆さまのご隆昌、御法体堅固を御祈念申し上げ挨拶と致します。

寺族会会長をお受けして

寺族会会長　木　村　満寿子

新型コロナウイルス感染拡大を警戒しながらも、日常生活を取り戻すために試行錯誤の日々が続いております。

そんな中、追い打ちをかけるように豪雨による未曾有の災害が各地でおきました。

この紙面をお借りいたしまして、予期せぬ事態の中でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の深い悲しみや苦しみが少しでも和らいで下さることを願ってやみません。

さて、社会全体に自粛が求められている中、寺族会も四月の総会、七月の研修旅行と皆様にお会い出来る機会が失われたまま今日に至っております。

また、今年度は役員改選の年でもありました。新しい会長につなぐこともできず、新体制を早期に築けなかったのは私の不徳の致すところです。

しかしながら、二期目をお引き受けした以上、その責任を果たさなければならないと痛感しております。と、同時に大きな課題も与えられました。「次の会長につなぐために、また、役員も含めて寺族の皆様に積極的に参加して頂くために何をしなければならないのか」各行事が中止になっている今年度はじっくりと考える良い機会かもしれません。会長として力不足は否めませんが、宗務所様をはじめ、諸先輩、役員の皆様のお力をお借りして、丁寧に考え、取り組んでいきたいと存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。

お盆が近づいてもまいります。秋田県では帰省の自粛を求めていますが、複雑な心境です。感染防止策をしっかりとして、静かに、心静かにお参りをして頂ければと願っています。

去年までは帰省した子どもや孫を連れての賑やかなお参りでした。あちこちで懐かしい人との挨拶が交わされ、大きな笑い声もここかしことひびきました。

遠くから、各地区をまわる盆踊りの笛や太鼓の音も聞こえてきました。

今年はいつもとは違う特別な夏、お盆になるのでしょうか。

それでも、いつものように本堂・位牌場・お墓・参道の掃除等々、ご先祖様をお迎えするために寺族はがんばります。

最後に、寺族会がお檀家様や方丈様のご理解を得られますよう、意義深い活動を心がけ、一人でも多くの方に参加して頂きますよう努力してまいります。

宗務所様、県内各ご寺院様のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

この原稿が掲載される頃には新型コロナウイルス感染拡大が落ち着いていますように、心より願っております。

原点への立ち返り

婦人会会長　野呂田　恵　子

陽春の候　世界的な新型肺炎禍によって、戦後日本の最大級の国難とも言われる歴史的変革で、新しい日常生活へ一変しました。

已む無く、五月の「総会」と六・七月の「東北管区研修会」は中止となりました。十月の「曹洞宗婦人会創立四十五周年記念式典」は大幅な縮小で、大本山永平寺様で開催予定です。平穏な日常が、如何に有難いことか、思い知らされました。

図らずも、会長のお役目を果たすことを、お引き受け致しました。それは、故郷への感謝とご先祖様・父母の遺志の願い有難さに気づき継承して、娘として人としてご恩に報いなければと思ったからです。これからどうあったらよいか？　と考えております。この先の見えない試練の時期に、ご承認頂きましたこと、身に余る光栄と存じます。そして、使命・責任を感じております。

時代の潮流に流されがちの中で、嘗て、物質的豊かさが幸せになるという幻想を少なからず持っていた様に思います。しかし、物質的な豊かさイコール幸せということに、行き詰まりを呈する現代、大事な価値とは何かと思います。

平成時代、入会が一つの契機となりました。会員の皆様と新しく出合いまして、心安らかな楽しい時を過ごさせて頂きました。趣意への理解を深めまして刺激を受けました。心身の救いになりましたので、本当に恵まれた幸福なことで、喜びであり感謝です。菩提寺様のお陰です。檀信徒が宗門の学びをすることは必要と思いますが、限られております。その為、会は貴重であり、個人・家庭・社会へ貢献出来るものと思います。

加速するデジタル化の科学文明社会で、災害危機に直面し、生命が脅かされています。新型肺炎の拡大、各地の豪雨被害など、本当に心が痛みます。余りにも、今まで目に見える世界だけに心が奪われ、見えない繋がりや環境に生かされていることを忘れていないかを教えられます。回顧して、見えない心や精神と見える身体をもった唯一無二の大切な命の存在に、改めて意識・自覚をもって生きていきたいと思います。今、一から出直すこと、本質に戻ることが自分と向き合い、とり戻すことに繋がり、主体性の確立が求められていると感じます。

会は三十年の記念の年を迎えました。

目的遂行のため、先人の御尽力に心から尊敬と御礼を捧げて、温故知新の信で、ご教示を仰ぎながら、会員と共に可能性を引き出し、共有し力を合わせて、今できる事を大切に、未来を啓（ひら）き受け渡す為に、互いに自己成長を図り、誠心誠意明るく努めて参りたいと存じます。

どうぞ、宗務所様、御寺院様、ご寺族・檀信徒の皆様のお力添えを、何卒、宜しく御願い申し上げます。

令和元年度曹洞宗秋田県宗務所　事業報告

秋田県宗務所事業					
令和元年		事　　業	開催場所	備　考	参加人数
4 月	22 日	寺族会総会	宗務所		70
5 月	15 日	布教委員会・布教協議会	宗務所		45
	15 日	臨時所会	宗務所		28
	21 日 ~24 日	梅花流全国奉詠大会	熊本市	グランメッセ熊本	53
	27 日	婦人会総会	秋田市	キャッスルホテル	65
		所報第 123 号発行		予算報告　他	
6 月	10 日 ~15 日	梅花特派巡回	管内 16 教場	特派師範３名	
	17 日 ~22 日	特派布教巡回	管内 18 教場	特派布教師３名	
7 月	5 日	監査会	宗務所		4
	23 日	宗務所護持会総会	宗務所		41
	29 日	通常所会（決算）	宗務所		28
		禅の集い	管内寺院		
8 月	10 日 ~18 日	宗務所休務		盆休み	
9 月	5 日	梅花検定会(県北地区)　四級師範･三級詠範･二級教範まで受検可			26
	17 日 ~18 日	現職研修会	歓喜寺		182
		所報 124 号発行		決算報告　他	
10 月	2 日	梅花流全県大会	男鹿市	市民文化会館	643
	9 日 ~12 日	本山研修会	永平寺		62
11 月	1 日	禅センター設立集会（永年・寺族表彰式）	秋田市	ビューホテル	240
	7 日	梅花検定会（中央・県南地区）　四級師範・三級詠範・二級教範まで受検可			47
	13 日	宗務所寺族集会	宗務所		70
12 月	25 日 ~ 1 月 7 日	宗務所休務			
令和２年					
1 月		所報 125 号発行		新年号	
	21 日	宗務所梅花講役員会	宗務所		11
2 月	19 日	諮問委員会・災害対策委員会	宗務所		13
	19 日	宗務所梅花講講長会	宗務所		19
3 月	24 日	通常所会（予算）	宗務所		27
	25 日	徒弟研修会	宗務所		中止

曹洞宗秋田県宗務所･禅センター
令和元年度 事業報告

【禅センター布教部・研修部・梅花部】

NO.	年	月　日	開始時間	担当	事　業　名・備　考	参加人数
1	平成３１年	４月５日（金）	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）	26
2	令和元年	５月14日（火）	10時30分	梅花部	宗務所講師等研修会	22
3		５月17日（金）	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）	20
4		６月７日（金）	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）	31
5		６月24日（月）	10時00分	布教部	布教師養成講座①	18
6		７月４日（木）	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）	25
7		７月11日（木）	13時00分	布教部	仏教講座①　会場　なかいち	53（写経22）
8		７月23日（火）	13時00分	研修部	研修会①	18
9		９月27日（金）	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）	35
10		10月16日（水）	９時00分	布教部	仏教講座・野外研修	52
11		10月18日（金）	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）	19
12		10月29日（火）	10時30分	布教部	写　経　会	19
13		10月29日（火）	13時00分	布教部	仏教講座②	32
14		11月１日（金）	13時00分		禅を聞く会（設立集会併催）	240
15			16時00分		禅センター設立集会（式典）	43
16		11月14日（木）	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）	16
17		11月19日（火）	10時30分	布教部	布教師養成講座②	17
18		11月25日（月）	10時30分	布教部	写　経　会	14
19		11月25日（月）	13時00分	布教部	仏教講座③	26
20		12月13日（金）	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）	19
21	令和２年	２月６日（木）	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）	13
22		２月７日（金）	13時00分	布教部	布教師養成講座③	24
23		２月13日（木）	13時00分	研修部	研修会②	13
24		３月６日（金）	10時30分	梅花部	梅花流講習会（～15時）	21

※野球大会は天候事情（台風接近）により、開催できませんでした。

平成31・令和元年度　曹洞宗秋田県宗務所歳入歳出決算書

一金　62,270,889 円　平成 31 年・令和元年度　歳入決算額

一金　49,591,144 円　平成 31 年・令和元年度　歳出決算額

一金　12,679,745 円　差引残額

（単位：円）

項　　目	本年度予算額	本年度決算額	増　　減
歳　入　合　計	62,195,206	62,270,889	75,683
歳　出　合　計	62,195,206	49,591,144	△ 12,604,062
差　引　残　額	0	12,679,745	12,679,745

歳入の部

項　　目		本年度予算額	本年度決算額	比較増減	説　　明
1　賦　課　金		41,552,560	41,528,040	△ 24,520	
	1. 寺 格 割	1,839,000	1,839,000	0	格　地　10,000 円×　24 ヶ寺 法　地　5,000 円× 317 ヶ寺 准法地　2,000 円×　7 ヶ寺
	2. 級 階 割	35,902,560	35,881,040	△ 21,520	448,513 点× 80 円 前年度 448,782 点 -269 点
	3. 教 師 割	3,811,000	3,808,000	△ 3,000	大 教 師　42,000 円×　4 名 権大教師　30,000 円×　67 名 正 教 師　6,000 円× 161 名 一等教師　3,000 円× 130 名 二等教師　2,000 円× 137 名
2　手　数　料		2,000,000	1,977,200	△ 22,800	
	1. 手 数 料	2,000,000	1,977,200	△ 22,800	各種申請手数料
3　補　助　金		900,000	894,952	△ 5,048	
	1. 補 助 金	900,000	894,952	△ 5,048	本庁より事業補助 教化（各研修会補助等） 梅花・事務・他
4　諸　収　入		2,580,000	2,708,051	128,051	
	1. 諸 収 入	2,580,000	2,708,051	128,051	現職研修会 ○　受講料　7,000 円× 185 名 梅花検定会 ○　検定料　3,000 円×　68 名 梅花県大会 ○　参加料　2,000 円× 502 名 ○　預貯金受取利息など
5　繰　越　金		15,162,646	15,162,646	0	
	1. 繰 越 金	15,162,646	15,162,646	0	前年度繰越金
歳　入　合　計		62,195,206	62,270,889	75,683	

歳出の部

項目		本年度予算額	本年度決算額	比較増減	説明
1.人件費		18,000,000	17,739,543	△ 260,457	
	1.役職員手当	5,040,000	5,040,000	0	70,000円×６名×12ヶ月
	2.書記手当	1,680,000	1,680,000	0	70,000円×２名×12ヶ月
	3.傭人費	200,000	45,000	△ 155,000	清掃他
	4.旅費	4,200,000	3,905,543	△ 294,457	本庁及び管区・教化センター 関連会議・事業等参加旅費 （梅花流全国奉詠大会等） 宗務所事業参加旅費 （本山研修会等）
	5.費用弁償	5,760,000	5,949,000	189,000	所長7,000円 副所長8,000円 教化3,000円 庶務4,000円 梅花6,000円 人権8,000円 書記7,000円（伊藤・我孫子）
	6.期末手当	1,120,000	1,120,000	0	70,000円×２×８名
2.事務費		4,400,000	4,191,261	△ 208,739	
	1.備品費	500,000	357,726	△ 142,274	事務機器更新（PC4台）・投影 スクリーン・金庫内ラック他
	2.通信費	1,000,000	1,120,481	120,481	電話料・郵便料・配送料等 （ゆうメール値上げの為）
	3.印刷費	400,000	414,248	14,248	封筒・賞状他
	4.消耗品費	500,000	406,765	△ 93,235	雑貨・事務用品他
	5.リース料	900,000	966,133	66,133	OA機器・コピー機・電話機・ AED・ネットワーク契約・ フレッツジャパン月額等
	6.広報費	1,100,000	925,908	△ 174,092	宗務所所報 年３回発行
3.管理費		2,650,000	1,724,670	△ 925,330	
	1.維持費	800,000	609,108	△ 190,892	保険料（地震保険含む） 清掃費（ダスキン月額） 浄化槽管理料・警備保障他
	2.地代	250,000	250,000	0	借地代（天徳寺様）
	3.営繕費	800,000	157,400	△ 642,600	給湯室（換気扇・湯沸器交換） 玄関車椅子スロープ板購入
	4.光熱費	800,000	708,162	△ 91,838	電気・ガス・水道・灯油他
4.会議費		1,500,000	1,070,844	△ 429,156	
	1.所会	1,300,000	887,844	△ 412,156	通常所会２回・臨時所会１回 （予算所会：宿泊なし）
	2.委員会	200,000	183,000	△ 17,000	監査１回・過疎地域懇談会１回 諮問・災害対策協議会１回
5.事業費		9,600,000	7,225,713	△ 2,374,287	
	1.事業費	2,250,000	1,714,706	△ 535,294	現職研修会　1,133,996 本山研修会　339,610 設立記念集会　129,200 所長杯野球大会　中止 徒弟研修会　中止
	2.布教伝道費	1,000,000	720,480	△ 279,520	特派教場補助 360,000 同布教師送迎 210,480 宗務所布教師・管区教場補助 150,000

項目		本年度予算額	本年度決算額	比較増減	説明
	3. 梅 花 費	5,000,000	3,783,993	△ 1,216,007	特派巡回教場補助　300,000 同送迎費　234,330 全県奉詠大会　1,580,358 役員会・講長会　112,000 検定会（2 会場）　593,660 師範・詠範の会　700,000 同一泊研修補助　100,000 指導者養成所　100,000 他
	4. 教 化 費	650,000	547,980	△ 102,020	布教委員会・協議会 459,020 各種研修会
	5. 慰 問 費	100,000	30,000	△ 70,000	住職永年勤続 50･60 年 祝膳料等
	6. 人権擁護推進費	600,000	428,554	△ 171,446	全国人権主事研修会参加費 書籍・DVD・資料　購入費
6. 禅センター事業費		2,550,000	2,302,309	△ 247,691	
	1. 会 議 費	200,000	177,830	△ 22,170	総務部会議費・各委員会
	2. 布教部費	700,000	696,048	△ 3,952	仏教講座・写経会
	3. 研修部費	600,000	481,730	△ 118,270	各種研修会
	4. 梅花部費	450,000	373,904	△ 76,096	梅花流講習会
	5. 運 用 費	600,000	572,797	△ 27,203	備品購入・設立記念事業費等
7. 補　助　費		7,958,000	7,886,804	△ 71,196	
	1. 事務補助	4,200,000	4,152,804	△ 47,196	所費 10％各教区へ
	2. 事業補助	348,000	348,000	0	教区主催現職研修会・寺族 研修会補助金
	3. 所護持会補助	900,000	900,000	0	宗務所護持会へ 管区集会分削減（隔年開催）
	4. 禅の集い	800,000	776,000	△ 24,000	教区寺院開催補助金
	5. 教化団補助	1,710,000	1,710,000	0	寺族会 35 万円・婦人会 40 万円 尼僧団 10 万円・教誨師　6 万円 保護司会　20 万円 布教師の会　10 万円 県僧青会　50 万円
8. 表　彰　費		200,000	25,488	△ 174,512	
	1. 表 彰 費	200,000	25,488	△ 174,512	住職勤続・寺族表彰用 （額縁・記念品代）
9. 慶　弔　費		2,400,100	1,690,000	△ 710,100	
	1. 慶 弔 費	400,000	240,000	△ 160,000	結制・落慶　本葬　等
	2. 本山慶弔費	100	0	△ 100	両本山慶弔会　なし
	3. 弔 慰 金	2,000,000	1,450,000	△ 550,000	住職・東堂・副住職 :10 万円 寺族 : 5 万円（管内寺院）
10. 負　担　金		539,400	539,400	0	
	1. 全国所長会	156,600	156,600	0	348 ヶ寺× 450 円（含全国所長会災害援護金 1 ヶ寺 100 円）
	2. 布教助成費	208,800	208,800	0	348 ヶ寺× 600 円
	3. 管 区 費	174,000	174,000	0	348 ヶ寺× 500 円
11. 交　際　費		400,000	328,356	△ 71,644	
	1. 交 際 費	400,000	328,356	△ 71,644	各団体への賛助金他
12. 食　糧　費		1,300,000	1,037,402	△ 262,598	
	1. 所会食糧費	700,000	456,376	△ 243,624	通常所会 2 回・臨時所会 1 回 （予算所会：懇親会なし）
	2. 委員会食費	50,000	21,560	△ 28,440	監査会 1 回・諮問委員会 1 回

項　目		本年度予算額	本年度決算額	比較増減	説　明
	3.所内食糧費	550,000	559,466	9,466	
13.財政調整費		10,247,406	3,761,976	△ 6,485,430	
	1.災害見舞金	2,000,000	0	△ 2,000,000	なし
	2.記念品代	750,000	185,240	△ 564,760	教区長退任記念品代 (絡子代 筆耕料　185,240)
	3.財政調整金	5,497,406	1,576,736	△ 3,920,670	設備費（LED 照明）　776,736 災害対策援護金　600,000 管区災害見舞金　200,000
	4.基本金繰出金	2,000,000	2,000,000	0	
14.選　挙　費		300	0	△ 300	
	1.副 貫 首	100	0	△ 100	選挙なし
	2.宗務所長	100	0	△ 100	選挙なし
	3.宗会議員	100	0	△ 100	選挙なし
15.雑　費		150,000	67,378	△ 82,622	
	1．雑　費	150,000	67,378	△ 82,622	町内会費・新聞購読料・常備薬　他
16.予　備　費		300,000	0	△ 300,000	
	1.予 備 費	300,000	0	△ 300,000	
歳　出　合　計		62,195,206	49,591,144	△ 12,604,062	

項　目	本年度予算額	本年度決算額	比　較　増　減
歳　出　合　計	62,195,206	49,591,144	△ 12,604,062

平成31年・令和元年度　曹洞宗秋田県宗務所歳入歳出剰余金処分

歳　入　合　計	62,270,889 円
歳　出　合　計	49,591,144 円
差　引　残　高	12,679,745 円

上記剰余金を下記の通り処分する。
金　12,679,745 円を令和二年度会計に繰り入れる。

令和２年度　曹洞宗秋田県宗務所補正予算

歳入の部

項　　目		当初予算額	補正額	予算額	説　　明
5　繰　越　金		12,096,109	583,636	12,679,745	
	1. 繰 越 金	12,096,109	583,636	12,679,745	平成 31 年・令和元年度繰越金
歳　入　合　計		59,500,000	583,636	60,083,636	

歳出の部

項　　目		当初予算額	補正額	予算額	説　　明
7　補　助　費		8,258,000	100,000	8,358,000	
	5.教化団補助	2,210,000	100,000	2,310,000	布教師の会 100,000 → 200,000
13　財政調整費		6,552,200	483,636	7,035,836	
	3.財政調整金	2,352,200	483,636	2,835,836	設備費・災害対策協議会援護金等
歳　出　合　計		59,500,000	583,636	60,083,636	

令和２年度宗務所基本金積立会計について

（将来の宗務所改築のための積立）

平成 31 年・令和元年度　基本金積立会計

積立累積金	19,560,074
一般会計繰入金	2,000,000
利　息	1,246
計	21,561,320

○　令和元年度分は、上記のように積み立てしております。
○　令和２年度の予算案には 1,000,000 円で計上しています。

令和２年度　基本金積立会計案①

積立累積金	21,561,320
一般会計繰入金	1,000,000
利　息（予測）	2,156
計	22,563,476

○　令和２年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為に各事業が中止されており、令和２年度の歳入歳出決算時の剰余金が増える事が予想されます。繰越金処分の状況では繰入金を増額する場合も十分考えられます。
○　増額上限を 4,000,000 円に設定することもご検討下さい。

令和２年度　基本金積立会計案②

積立累積金	21,561,320
一般会計繰入金	1,000,000
「人件費・旅費」中止分	2,000,000
「本山研修・同旅費」中止分	1,000,000
「特派布教・梅花巡回」中止分	1,000,000
利　息（予測）	2,156
計	26,563,476

※　①を基本とする。②については状況を精査し再討議
　　次の令和３年３月所会にて判断する。

知足集（二）

前号に続いて、禅センター研修部主催「詩偈研修会」の実績をまとめた「知足集」の後半を掲載いたします。

十一、「新春想」

（下平一先）　後藤哲元

○○●●●○◎　新春自寿夕陽前　新春自ら寿ぐ夕陽の前
●●○○●●◎　寄信吟朋一笑縁　信を寄す吟朋一笑の縁
●●○○○●●　生計雖貧身尚健　生計貧なりと雖も身尚健なりと
○○●●●○◎　相携白玉意悠然　相ひ携ふ白玉意悠然

（評）

○　平仄、起承転結などきれいに出来ている。伺えば国語、英語の先生をされていたそう。
○　「吟朋」は、意味はわかるが「同参」の方が良い。
○　「白玉」は、良い詩を作りたいという願心のことですとの注がある。

（添削詩）

○○●●●○◎　新春自寿夕陽前　新春自ら寿ぐ夕陽の前
●●○○●●◎　寄信同参一笑縁　信を寄す同参一笑の縁
●●○○○●●　生計雖貧身尚健　生計貧なりと雖も身尚健なりと
○○●●●○◎　相携白玉意悠然　相ひ携ふ白玉意悠然

（寄信同参）道心ある同参の善知識
（一笑）にっこり笑い合える友
（生計雖貧）暮らし向きは華美ではないけれど
（相携白玉）お互いに大切にしている願いは負けない
（意悠然）大事なこと以外動じないで、悠々としている

十二、「祝新春」

（上平一東）　戎谷周平

●●○○○●●◎　白雪紛紛舞大空　白雪紛紛として大空を舞い
○○●●●○◎　乾坤一色瑞光中　乾坤一色瑞光の中
○○●●○○●　人心自改屠蘇酒　人心自ら改まる屠蘇の酒
●●○○●○◎　万事昇平令和風　万事昇平令和の風

（評）

○　新春の雰囲気が良く出来ている。
○　四句目、和が二六対ならずで「令和風」が不可なので「楽歳豊」（歳豊を楽しむ）とした。お屠蘇の味わいまた新春を祝う気持ちが出てくる。

（添削詩）

●●○○●●◎　白雪紛紛舞大空　白雪紛紛として大空を舞い
○○●●●○◎　乾坤一色瑞光中　乾坤一色瑞光の中
○○●●○○●　人心自改屠蘇酒　人心自ら改まる屠蘇の酒
●●○○●●◎　万事昇平楽歳豊　万事昇平歳豊を楽しむ

（白雪紛紛）雪が入り乱れて
（乾坤一色瑞光中）天地が瑞気の光満ちている様子
（自改）自然に反省の気持ちになる
（万事昇平）世の中が平和で良く治まっている
（楽歳豊）新年が豊かでありますように願うものだ

十三、「涅槃会」

伊藤涼平

（下平七陽）

○○●●●○◎　沙羅樹下落空亡　沙羅樹下落ちて空しく亡ずず
●●○○●●◎　百萬人天伏嘆傷　百萬人天伏して嘆き傷む
●●○○○●●　最後光明輝億劫　最後の光明億劫に輝き
○○●●●○◎　鶯聲説出照堂場　鶯聲説き出して堂場を照らす

（評）

○　平仄をきれいに合わせて涅槃の悲しみを詠んでいる。
○　「落空亡」はいまひとつなので「欲帰郷」とした。
○　四句目「堂場」の堂は、七陽韻であるので、これを冒韻（同じ韻の字を使うこと）といって不可。
そこで「打風狂」とした。風は東韻。

（添削詩）

○○●●●○◎　沙羅樹下欲帰郷　沙羅樹下郷に帰らんと欲す
●●○○●●◎　百萬人天伏嘆傷　百萬人天伏して嘆き傷む
●●○○○●●　最後光明輝億劫　最後の光明億劫に輝き
○○●●●○◎　鶯聲説出打風狂　鶯聲説き出して風狂を打つ

（沙羅樹下）サラソージュの下に横たわり
（欲帰郷）涅槃に入られた
（輝億劫）今日までそしてこれからもずっと輝いて
（鶯聲説出）釈尊の代わりに鶯が鳴いて
（打風狂）とんでもない法孫たちを懲らしめてくれる

十四、「庚子新年」

伊藤涼平

（上平十一真）

○○●●●○◎　人間改歳瑞雲新　人間改歳瑞雲新たなり
●●○○●●◎　獨坐無心未是真　獨坐無心未だ是真ならず
●●○○○●●　静寂堂中寒徹骨　静寂堂中寒骨に徹す
○○●●●○◎　東昇暁日自成春　東昇暁日自ずから春と成る

（評）

○　庚子の新年を迎えた喜び。
平仄、起承転結が好い。
○　坐禅の心中未だ釈然としない時、普通に日が昇ったのではなく、冬の雷が轟いて我に返ったと直してみた。
○　三句目、四句目「静寂」と「雷声」で対にした。

（添削詩）

○○●●●○◎　人間改歳瑞雲新　人間改歳瑞雲新たなり
●●○○●●◎　獨坐無心未是真　獨坐無心未だ是真ならず
●●○○○●●　静寂堂中寒徹骨　静寂堂中寒骨に徹す
○○●●●○◎　雷声一喝忽驚春　雷声一喝忽ち春に驚く

（人間）世の中、漢文では普通ジンカンと読む
（瑞雲）彩雲ともいい、虹のような雲
（未是真）なんとも落ち着かない心中
（寒徹骨）厳しい寒さ
（雷声一喝）雷が轟く
（忽驚春）おかげで体中で春を感じることが出来た

十五、「涅槃会」

土屋泰順

（上平十一真）

●○●●●○◎　慈光照破報恩辰　慈光照破す報恩の辰
●●○○●●◎　遺教満堂千古新　遺経堂に満ちて千古新たなり
●●○●●○●　以現心境涅槃景　以て心境を現ずる涅槃の景
○○●●●○◎　轉安身命法王輪　轉じて身命を安んずる法王輪

（評）

○　この漢詩、一見すると三句目が、平仄の決まり二四不同、二六対を破っているようだが、これを「挟み平」と言って許されている。

○　「挟平格」とも言うが、平起こりの漢詩で押韻しない句における句末の○●●は、●○●をもって換えることが出来る。この時、二四不同、二六対は破られてもかまわない。

○　初学の人の出来る技ではないが、これを許されると漢詩の幅が広がるのである。

（添削詩）

●○●●●○◎　慈光照破報恩辰　慈光照破す報恩の辰
●●○○●●◎　遺教満堂千古新　遺経堂に満ちて千古新たなり
●●○●●○●　以現心境涅槃景　以て心境を現ずる涅槃の景
○○●●●○◎　轉安身命法王輪　轉じて身命を安んずる法王輪

（慈光照破）慈しみの光が差し込む
（遺経満堂）諷経する音声が堂に満ちている
（千古新）在世の姿が今によみがえる
（涅槃景）涅槃の情景を想う
（法王輪）釈迦の教えが転じている

十六、「歳朝」

三浦史道

（上平十一真）

○●○○●○◎　連日寒空浄無塵　連日寒空浄うして塵無し
○○●●●●◎　春光未遠大雪辰　春光未だ遠し大雪の辰
○○●●○○●　窓前独想東風夢　窓前独り想う東風の夢
●●●○●●◎　立志歳朝万象新　志を立てる歳朝万象新なり

（評）

○　投稿に平仄、読み下しがない。これから平仄原稿を使って欲しい。筋は良い。

○　一句目「浄無塵」の無が、二六対ならずで不可。二句目「大雪辰」も同じ、よって入れ替えた。

○　「未遠」は「未到」にした。

（添削詩）

○●○○●●◎　連日寒空大雪辰　連日寒空大雪の辰
○○●●●○◎　春光未到浄無塵　春光未だ到らず浄無塵
○○●●○○●　窓前独想東風夢　窓前独り想う東風の夢
●●●○●●◎　立志歳朝万象新　立志の歳朝万象新なり

（連日寒空）厳しい冬空
（大雪辰）今年はどうしたものか？秋田の冬はいずこに
（浄無塵）大掃除をして迎えた寺域はきれいだ
（立志歳朝）今年の目標、漢詩を頑張る？にして欲しい
（万象新）何もかもが新鮮な元旦の朝だ

十七、「賀令和」

（上平十灰）　佐藤俊明

○○●●●○◎　新春慶賀改元梅　新春慶賀す改元の梅
●●○○●●◎　三十余年得縁開　三十余年縁を得て開く
●○●○○●●　一望好天如賛嘆　一望の好天賛嘆の如し
○○●●●○◎　薫風立起令和来　薫風立ち起きて令和来る

（評）
○　平成の三十余年が終わり、令和の幕開けを祝う佳句。
○「縁」平字のときはフチの意味。ここでは仄字。
○「望」平字のときは望むの意味。仄字はほまれの意味のとき。よって「一●○望」を「遠●●近」とした。

（添削詩）
○○●●●○◎　新春慶賀改元梅　新春慶賀す改元の梅
●●○○●●◎　三十余年得縁開　三十余年縁を得て開く
●●●○○●●　遠近好天如賛嘆　遠近の好天賛嘆の如し
○○●●●○◎　薫風立起令和来　薫風立ち起きて令和来る

（新春慶賀）令和の歳、初めての正月
（改元）天皇が変わり、元号が変わる
（如賛嘆）天候良く天地もお祝いしているようだ
（薫風立起）風薫り令和の時代が始まる

十八、「恭賀向川東堂百壽」

（下平七陽）　桜田元康

●●○○○○●◎　篤信翁僧薫献香　篤信の翁僧薫献香
○○●●●○◎　喫茶単坐幾星霜　喫茶単坐幾星霜
○○●●○○●　元辰百計玲瓏雪　元辰百計玲瓏の雪
●●●○●●◎　今日龍登賀吉祥　今日龍登り吉祥を賀す

（評）
○　作者の祖父師匠が、めでたく百寿を迎えられた。
○「翁僧」より「老僧」が良い。老僧とは、悟られた方という意がある。
○「薫献香」はまずい「常献香」とした。
○　三句目、四句目が今一つ、少し変えた。

（添削詩）
●●○○○●◎　篤信老僧常献香　篤信の老僧常に香を献ず
○○●●●○◎　喫茶単坐幾星霜　喫茶単坐幾星霜

●○●●○○●　乃知百壽玲瓏雪　乃ち知る百壽玲瓏の雪
●●○○●●◎　今日元辰賀吉祥　今日元辰吉祥を賀す
（篤信老僧）向川東堂老師は、矍鑠たる老僧であられる
（喫茶単坐）お茶人でもあり、いつも独りで坐す
（乃知百壽）とても百歳とは思えぬ動きに驚く
（玲瓏雪）澄み切った一面の白雪
（賀吉祥）老師、誠におめでたい元旦である

十九、「年頭祈祷」

（下平一先）　田中裕憲

○○○○○●●◎　年頭寒風独不眠　年頭寒風独り眠らず
○●●○●●◎　香火祷祈世界円　香火し祷祈す世界円かならんことを
●○●○○●●　令和二年無別事　令和二年別事なく
○○○●●○◎　徐徐春暁吉祥天　徐徐に春暁吉祥の天

（評）
○　書き下しはあるが、平仄なし。原稿用紙使うこと。
○　一句目「寒○○風」の風○が、二四不同ならず不可なので「寒●月」とした。「独●●◎不眠」の不●も、二六対ならず

「●○◎」とした。少林山は、西来院の山号。
○　三句目「●○」の和が平字なので不可、変えた。

（添削詩）

○○○●●○◎
年頭寒月少林辺　年頭寒月少林の辺り
○●●○●●◎
香火祷祈世界円　香火し祷祈す世界円かならんことを
○●●○○●●
今日令和無別事　今日令和別事無し
○○○●●○◎
徐徐春暁吉祥天　徐徐に春暁して吉祥の天

（念頭寒月）朝早い暗闇に月が煌々と輝いている
（香火祷祈）元朝、御香を焚くための火を入れて祈る
（今日令和）新元号の朝を迎えたが、変わることない日々
（徐徐春暁）だんだん日が昇り明るくなって
（吉祥天）おめでたい世界となった

二十、「佛涅槃會法語」

（上平十一真）　矢萩宗淳

●●○○●●◎
敬仰如来浄法身　敬仰す如来の浄法身
○○●●●○◎
花紅柳緑永芳春　花は紅柳は緑なり永の芳春
○○●●○○●
雙林白鶴超生死　雙林の白鶴生死を超え
●●○○●○◎
劫使人天結勝因　劫って人天を使て勝因を結ばしむ

（評）
○　投稿が昨日（研修会前日）と遅かったので？良く出来ている。
○　敬仰は、宗門では普通ケイゴウと読む。
○　四句目の劫は誤字で、却って。
○　平仄、起承転結良し、意味もよくわかる。

（添削詩）

●●○○●●◎
敬仰如来浄法身　敬仰す如来の浄法身
○○●●●○◎
花紅柳緑永芳春　花は紅柳は緑なり永の芳春
○○●●○○●
雙林白鶴超生死　雙林の白鶴生死を超え
●●○○●○◎
却使人天結勝因　却って人天を使て勝因を結ばしむ

（敬仰如来浄法身）うやまいあおぐお釈迦さま
（花紅柳緑）二月の芳春の様子
（雙林白鶴）サラソージュの木が白い花をつけ、それが白い鶴のようだ
（超生死）二千六百年後の今も、枕飾りにシカバナが
（結勝因）ありがたいご縁を結んでいる

「唯吾窟」

（９教区松庵寺の先代住職、渡辺昭雄老師の遺作である。範とすべき作品として特別に「知足集」に収録。）

「病牀偶作」

（下平七陽）　渡邊昭雄

●●○○○●◎
宿業難逃罹病牀　宿業逃れ難く病牀に罹す
○○○●●○◎
安眠高臥不如常　安眠高臥如常ならず
○○●●○○●
形骸五尺残生事　形骸五尺残生の事
○●○○●●◎
嘯月吟花壽更長　月に嘯き花を吟ずれば壽更に長からん

（宿業）前世でなした善悪の行為
（罹病牀）病いの床につく
（不如常）平常ではない
（形骸五尺）五尺の我が体
（残生事）生き残る方法
（嘯月吟花）風流自然にまかす

（作詩の要点）

○　病を得て三ヶ月近く、どうやら小康状態となり週末には外泊を許されるようになりました。この間諸師には御見舞いを頂き恐縮に存じております。詩偈の添削もできそうですので、ご安心下さい。

○　投稿誌のなかで語句の倒読に間違いが見られた。一句中に客語と補格の両方を含む場合には次の三通りの形がある。

①　舟を湖上に浮かぶ・浮二舟湖上一（述・客・補）

②　舟を湖上に浮かぶ・浮二舟於湖上一（述・客・前置詞・補）

③　君に美酒を贈る・贈二君美酒一（述・補・客）

☆　「弟子送二瑞應寺一」は「送二弟子瑞應寺一」か「送二弟子于瑞應寺一」とするべきである。

☆　「禅堂入許」は「許レ入二禅堂一」となる。

講義中の渡邉紫山老師

作詩に取り組む受講者

秋田県宗務所ネット法話〈8〉

祖父の導き

永泉寺副住職　猪股尚典

新型コロナウイルス禍の中、皆様はどのようにお過ごしでしょうか。楽しみにしていた予定や行事が中止になり、先行きの見えない不安を抱えて生活されているのではないかと思います。しかしこのような時こそ仏様を信じる力、信仰の力が大切だと私は確信しています。この力こそ私達に生きる力を与え、正しい生き方に導いてくださると信じてやみません。

道元禅師様が、仏道を志す者にその心がけを示された『学道用心集』に次のようなお言葉があります。

「法、我を転じ、我、法を転ずるなり。」

意訳すると「仏法（仏様の教え）が私達に働きかける時があり、私自身が仏法に働きかける時もある。」となります。仏の側から導かれる時もあり、逆に自分の発心によって求めていく時があるというお示しです。先日それを感じさせられる出来事がありました。

私は頂いた時間に坐禅をして心を落ち着かせ、積み重ねられていた本を読んでいます。その中で唯識仏教の第一人者である太田久紀先生の素晴らしい本との出会いがありました。今まで唯識を深く学ぶ機会がなかったのですが、唯識の考え方があまりにも緻密で私はあえて避けてきた気がします。しかし、唯識にも人々を救う力がある事を太田先生の本に教えていただき、まさに目から鱗が落ちる思いでした。自分の不勉強さを恥じながらも、太田先生の本に出合えたことを嬉しく感じました。今の状況でなければ一生出会えなかった本かもしれません。

太田先生は多くの著作を残されていらっしゃいます。他の著作も読んでみたいと調べてみましたが、先生は

二〇〇七年に逝去されており、絶版となっている著作がほとんどでした。古本で調べると元値の三倍近くになっているものもあります。どうしても購入に躊躇してしまい、しばらく古本屋の画面と睨めっこする日々が続きました。

そんなある日、私は先代の住職でもある祖父の事がふと頭をよぎりました。かつて私が大学の卒業論文で祖父に相談した折、祖父自身が書いた卒業論文を見せてもらったのですが、その内容が唯識だったことを思い出したのです。

「もしかしたら太田先生の本があるかもしれない！」と、私は急いで祖父の書斎に行き、何百冊とある本を片っ端から調べました。しかし残念ながらそこに見つけることはできませんでした。諦めかけて帰ろうとした時、廊下にふと子供の背丈くらいの古びた棚を見つけました。その棚には埃がつかないように布が掛けられていたのですが、薄暗かった事もあり今まで気にも留めなかったのです。恐る恐る布をめくると…なんとそこには太田先生の全著作をはじめ、今では手に入らない貴重な唯識仏教の本がほぼ全て揃っていたのです！　私は腰をぬかしました。二〇一六年に亡くなった祖父から最高のプレゼントをもらった気分でした。私は涙が止まらず、祖父の遺影の前で泣きながら感謝の礼拝をしました。その時祖父の声が聞こえた気がします。「よしよし、お前もようやく唯識を学べる力をつけたか。私が準備したから、頑張って読んでみなさい。」とても優しく励まされる声でした。亡くなって四年経っても、孫の私をこうやって導いてくださるのです。仏法が私を転じた瞬間でした。今度は私が法を転じる番です。私はこれを仏様の導きと受取り、生涯をかけて学ぶ決意をしました。

この出来事はただの偶然かもしれません。しかしこれを仏様の導きと信じ受け取った時、私は生きる力を頂いた気がします。さらに大切な事はただ待つのでは無く、その縁を頂ける様にこちらの側からも精進し、信じ求めて行くことです。これが信仰の力ではないかと思います。仏様の一光が世の闇を照らし、皆様に仏法の導きがありますよう祈ります。

妄言風発

この紙面は皆様の思惑を掲載するフリーページです

―十七教区の皆さまの声―

お地蔵様

大川寺住職　棟方宣之

暑さが本番になってまいりました。大曲地域は毎年町内十三か所で、六月二三日と二四日にお地蔵様の大祭をしております。町内によっては七月に大祭を営む地域もありますが、六月が多いようです。その祭典が始まったいきさつは、東北地方は明治時代末期から大正のはじめ、昭和の初期と飢饉や伝染病で沢山の子供が亡くなられた年が何年も続き、子供を亡くした親たちが、町内ごとにお堂を建てて、子供の供養の日をもうけたということです。確かに、當寺の古い過去帳を見ても、毎日のように子供が亡くなられている年が何年もあります。大曲だけでなく、地域ごとに供養をされている所も多いと思いますが、町内ごとに、僧侶をお呼びして供養します。お逮夜のお経が終わるとそれぞれの家々のお地蔵様を自宅に連れて帰り、一番風呂できれいに洗い、新しいタオルで拭いて床の間にまつり、その家、その家の精一杯のご馳走をお供えして、一晩泊まって、次の日にまたお堂にお返しする風習が残っております。また、絶えてしまった家や、秋田を離れた方々のお地蔵様は当番の方々が二、三人お堂に泊まって見守っています。しかし、最近では高齢化が進み、若い方も地元から離れていくことで、町内でお地蔵様を守る事が困難な町内も出てきています。しかし、この行事は先人達が、色々な思いで我々の想像もつかない事を乗り越えてこられた時代の大事な行事であります。形を変えてでも後世に遺していくことが我々のつとめであると思います。

唵訶訶訶尾娑摩曳娑婆訶（おんかかかかびさんまえいそわか）

新型コロナウイルス

見秀寺住職　佐々木大心

今年に入って間もなく新型コロナウイルスがもはや中国だけの話ではなくなり、ダイヤモンドプリンセス号の件もあり連日マスコミの報道が世の中を騒がせた。程なく日本にとっても本当に対岸の火事ではなくなり、今年四月七日には特別措置法に基づく緊急事態宣言が東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、大阪府、福岡県に対して発出され四月十六日には全都道府県に拡大された。

それに伴い全国で学校の臨時休業や店舗、施設に対して休業要請が出され我々の生活も大きく変化を強いられた。

五月二十五日には緊急事態宣言は解除されたものの、平時には程遠く、不安の中で皆注意しながら生活している現状である。

我々の業界も無論例外ではなく、涅槃会や施食会、お盆の棚経など、どうしたらいいのか悩まれた方は少なくないであろう。私の寺では毎日、月命日に檀家様のお宅に伺い読経供養している。最初はマスクは病気の人が付けるイメージもあり、慣れない事もあったりして、着用をためらった。当然新型コロナウイルスに対する個人的な意識の差は人それぞれだが、月命日のお経に行くと中にはかなり気にしておられる様子の檀家様も見受けられた。最初は家によってマスクを付けたり外したりしていたが今では私も慣れて来た事もあり、月命日のお経だけはマスク着用で読経供養している。

我々も様々な行事やお盆の棚経など、世情状況を見ながらの中止や規模の縮小、あるいは対策しながら行うという選択をしなければならない。本当に考えてもいなかった疫病に悩まされる年になってしまったが、一日も早くこの疫病が完全に終息して、かつての日常を取り戻せる様に御仏様に願うばかりです。

今夏の棚経中止

満友寺住職　鎌田俊龍

今年の棚経は、新型コロナウィルス感染拡大予防の観点から中止を決断し、檀家の皆さまへのお知らせをいたしました。

棚経を中止としたことに対しては、未だにいろいろな想いがつきまといます。

師父、晩年のお盆が近づいたある日のことです。「話がある」と部屋へ呼び出されました。「何か」と問うと、「今年はお盆、廻れそうにない」との言葉。内心、「え！」と、戸惑いました。その頃には、師父は体が弱り、棚経からとうに引退していたからです。「わかった」とだけ返事をして、その場を去ったことが思い出されます。

認知症も少し進んでいたことから棚経のことは、もう頭にないと思っていたので少なからず驚き、それと同時に「やっぱり」という感じもいたしました。

それと言うのも、師父は棚経を大変、大事にしていたからです。棚経は托鉢と同じだ。「行」なのだ。檀家さんに対する何よりの教化であり、我々僧侶を待っていてくださる気持ちに寄り添うことだ、と。

面と向かって教示されたことはありませんが、話の端々からうかがうことができました。また、何よりもその態度、行動で示されていたような気がします。

東堂に退いてからも、率先して棚経に勤しんでおりました。車の運転が難しくなってからも変わらず、朝五時半にはもうタクシーを玄関に横付けさせていました。体力的には大分きつかったはずです。それでも棚経を続けたのは、身心に染み込ませた道念であったと、私は思います。

棚経の中止。今の世情ではやむを得ないことと頭では理解しながらも、師父が最晩年の夏まで、棚経の心配をしていたことを考えると、私の判断はどうであったのだろうか……。と、のみくだしきれない気持ちになり、しきりに想念を馳せています。

恋衣

祇薗寺住職　秋山竜次

何かのきっかけで、何かをはじめた経験は誰しもがあることだと思います。

それが、三日坊主せよ一ヵ月せよ生涯にせよ。

運動会で負けて、悔しくて帰宅後ランニングをする子。

晋山式で正座の為にランニングする私。

オキニー（お気に入りの娘）に太ったねと言われランニングする人。

ドンドン議題から離れていく。

時を戻そう。

最近、酒癖の悪さを家族からも言われます。

息子からはコミュニケーションが痛い。妻からは言葉が汚い。

諸々省略。

愛妻家で知られる私ですが、言い訳や御託を並べたり、口にしてはいけない言葉を投げつけて、心を踏みにじったり。

その後に感じる、自分の弱さ、身勝手さ、虚しさ。

数日後、大曲イオンの書店に行った時、一冊の本が私にモーションをかけてきました。その本は『日本の大和言葉を美しく話す』です。

日本には漢語と外来語、そして生粋の日本語「大和言葉」の大きく分けてこの三つがあるそうです。

最近は、造語能力に富む漢語や一見シャレオツな外来語に押されて、長く愛され、用いられてきた美しい大和言葉があまり使われない、現象が生まれているそうです。

私はこの本を読んだ時、妙な心地良さを覚えました。

あたりまえですが、美しい心からは正しい言葉が生まれます。乱れた心からは粗暴な言葉が生まれ、いい結果はでません。

今、出会えて良かったです。改めて、日本語を勉強しようと決意した瞬間です。

売れない時代から、妻は百年たっても変わらぬ愛で私の事支えてくれました。

これからは、これからはと何回もご免を貰って来た私です。照れくさいので、所報の中心で愛を叫びます。『いつも、ありがとう。』

今日は、雨降りで中も外も仕事がないので『逢瀬』に誘います。

合掌

自分の役割

霊仙寺住職　中村健秀

妄言風発のコーナーは毎回興味深く拝見しておりますが特に若い方々が志高く僧侶という職に取り組まれていることに感心しています。いざ書く方となると難しいものですね。原稿依頼が届いたことを近親者に伝えると『俺はラーメン屋の話だった。』と。確かに私も記憶しておりました。だいぶ気も楽になったので話を進めたいと思います。

十七教区は十三カ寺と少ない寺院数ですが自坊の手伝いをしている副住職さんも多く教区で集まると威勢のいい若者のおかげでだいぶ賑やかな雰囲気になります。私が修行から

戻った頃は長い間下も入って来ず暫く下っ端のままでした。ただ右も左も分からない私を教区のみならず近隣のご寺院さん達にとても快く迎えていただき（少なくとも私にはそう映りました）事あるごとに声をかけていただきました。多くのご寺院さんとご縁をいただく機会を与えていただいた事は大変ありがたく今もその関係が続いていることに深く感謝しております。

現在私は年齢的にも中堅クラスとなり若手を迎える側となりました。若手を指導していくことは我々の任務と承知していますが、みんなとても礼儀正しく、気が利くし、何よりよく動いてくれます。私が先輩にご指導いただき、良き関係を築けたように青年僧侶の今後糧となる指導を心掛けたいです。

昨年私は住職辞令を受け、そう遠くない時期に晋山式を予定しております。若い頃の記憶は鮮明なもので初めて晋山式に随喜させていただいた際、多くの方々に慕われている新命和尚さんが出席者を前に『檀家さんに「おらほのおっさん」と呼んでもらえる住職になりたい』とご挨拶されました。とても親しみのある住職さんの人柄がよく表れた言い回しに心打たれました。この言葉が表すようご寺院さんにも檀家さんにも気兼ねなく声をかけていただける僧侶を目指してこれからも精進して参ります。

※当コーナーの掲載順は原稿到着順です。また、肩書きとご氏名は原稿に準じました。

表紙の言葉

俯瞰して考える
来年こそと乗り切ったこの夏は
彼には一度きりの夏で
彼女には最期の夏だった
影から見上げる空からわたしは見えない
私の夏をレンダリングする

滴禅会講伝会のお知らせ

故　杉本俊龍老師の究められた住持の心術と室内口訣を講伝する「滴禅会講伝会」が十月二十七日～二十八日の日程で、第一教区補陀寺様を会場に開催されます。
詳しくは左記のとおり。

第五十七回滴禅会

日程　第一日目　令和二年十月二十七日（火）十三時～十七時
◎開講式（杉本俊龍老師報恩諷経）
◎維那の心得と回向
講師　愛知県花井寺住職　井上義臣　老師

第二日目　令和二年十月二十八日（水）八時半～十二時
◎葬儀と中陰供養功徳・高祖十六条戒
講師　愛知県花井寺住職　井上義臣　老師
◎禅問答と公案について
講師　栃木県高福寺住職　武井全補　老師

会場　補陀寺会館　様
秋田市山内字田中二六
補陀寺様御山内
※諸般の事情により宗報九月号の案内と会場が異なります

会費　五千円

威儀　開講式には搭袈裟で御随喜下さい

ご参加・お問合せは　秋田市西来院　田中裕憲まで
（電話　〇一八―八四五―三六四一）

宗務所だより

宗務所正面の壁の劣化が激しくなり、所会の承認を得て修復工事を行うこととなりました。今年は宗務所設立30周年事業が計画されていましたが、新型コロナの感染拡大により中止が余儀なくされています。この工事も記念の諸事業を行うにあたり計画したものですが、これ以上の劣化を防ぎ工事費を抑えるため、年内に施工することとしました。

工事期間は９月末日までの予定です。この間、宗務所の出入りと入り口付近の駐車には十分お気を付けください。

併せて、すでにお知らせしている通り30周年記念事業としておりました養老猛司氏の講演会は、来年に延期とさせていただきます。どうぞご了承ください。

編集後記

新型コロナウィルスの猛威が止まりません。秋田市でもクラスターといわれる集団感染が発生し、宗務所の事業も年内は行うことが難しくなりました。

コロナ終息後の社会はどうなるのでしょうか。

葬儀に関して言えば、私の住職地限定かもしれませんが、縮小化が一気に進んだ感があります。家族葬が多くなり、伴ってこれまでは稀にしかなかった火葬と同日の葬儀が増えてきました。

葬儀が葬祭事業者のホールで行われることが一般化し、ご遺族もそのホールに宿泊して葬儀を迎えることを考えると、滞在日数を極力短くしたいというところなのでしょう。お互い様だった弔問や会葬も感染防止を理由に規制され、葬儀費用はご遺族丸抱えの負担とならざるを得ません。

これからの葬儀はこれが当たり前の形式になるのでしょうか？

歴史的にみると、これまで何度も葬儀が奢侈に走ることを戒める社会的な動きがありました。商品経済の発展が進み、農村共同体の衰退が顕著になった江戸時代後期から明治にかけてその復興が進められた地域や、戦後の経済発展の陰で全国的に展開された新生活運動などに顕著です。しかし、コロナ禍の影響による葬儀の縮小は、経済発展に向かう過程の生活規範の現れとして起きているのではなく、経済の衰退に向かう中で起きているもののように思われます。

葬祭は重要な儀礼であることは論を俟たないことでありますが、人口減少とコロナ禍の影響で急速にそのあり方は変わっていくものと予想されます。その変わり方に対して、より一層僧侶が自覚的に関わっていかなければならないと思います。

（袴田俊英　記）

年間行事予定

令和２年度（2020）

月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
10 OCT	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		（中止）梅花流講習会			←（中止）総持寺・本山研修→											（中止）仏教講座②	第一教区乗福寺　再会結制	第十教区福厳寺　晋山結制			人権啓発研修会	（中止）管区役職員		本葬儀	第十一教区恩徳寺　晋山	第三教区寶圓寺		検定会	（中止）管区布教講習会・	（全県）（中止）梅花流検定会			
月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
11 NOV	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
	禅センター設立記念日		文化の日						禅センター設立集会（中止）				（中止）梅花流講習会		（中止）曹青東北大会				（中止）寺族会研修会	（中止）教化指導員研修会				勤労感謝の日	宗務所護持会研修会（中止）	（中止）仏教講座③					
月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
12 DEC	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
				（中止）梅花流講習会							（中止）梅花流全県大会							連絡協議会	管区役職員					←				宗務所休務			
月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1 JAN	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	元日			宗務所休務			→				成人の日										梅花講役員会				連絡協議会	管区人権主事					
月/日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28			
2 FEB	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日			
					（中止）梅花流講習会			研修部研修②			建国記念の日								梅花講講長会				天皇誕生日		災害対策委員会	諮問委員会					
月/日	1	2		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
3 MAR	月	火		水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
		企画委員会	教化活動推進・		（中止）梅花流講習会																春分の日				通常所会（予算）						徒弟研修会

友引　管区　宗務所　宗務庁　県内寺院